

東京八王子西ロータリークラブ

会長賞

新谷 日菜 (しんたに ひな) 宮上小 4年生

作品名：「ヘレン・ケラー」を読んで

図 書：ヘレン・ケラー

読み始めてすぐは、病気のため、目も見えず、耳も聞こえなくなってしまうヘレン・ケラーが、かわいそうだなと思いました。読み終えた今は、障がい乗り越え、自分が正しいと思ったことをやりとげていく、強い人だと思いました。

目も見えず、耳も聞こえないということはどんな感じなのだろうと思い、十分間だけですが体験してみました。住みなれた家なのに、かべにぶつかったり、つまづいて転んだりして、とてもこわかったです。家族が物をわたそうと、私の目の前に差し出してきましたが、たたかれていると思い、手でよけてしまいました。目が見えず、聞こえないということは、物の場所や人の動きだけでなく、気持ちを感じることもむずかしいということがわかりました。もし私が急に目も見えず、耳も聞こえなくなったら、なきさけびあばれてしまうと思います。

小さなヘレンがサリバン先生と出会って、私が考えられないほど努力をし、大学をそつ業したのは、とてもすごいことだと思います。そして、まだ自分はめぐまれていると思い、人を助ける運動を続けたヘレン・ケラーは、強くやさしい人だと思いました。

この本には、点字や手話についても書いてありました。町で、点字や点字ブロック、青になったら音が鳴る信号を見たことがあります。白いつえを持っている人やもうどう犬を連れた人、車いすに乗っている人を見かけたら、さつと道をゆずりたいと思います。こまっているようなら、声をかけて大人をよびに行きたいと思います。

私は、今まで、と中でやめてしまうこともありました。これからは、少しむずかしいことにでもあきらめずに挑戦していきたいと思います。こまっている人がいたら見ているだけでなく、勇気を出して助けられる心のやさしい人になりたいと思います。